■企画連載■ 地域看護に活用できるインデックス

No.0

「地域看護に活用できるインデックス」によせて

田髙　悦子
横浜市立大学大学院医学研究科
日本地域看護学会編集委員会委員長

日本地域看護学会誌，17(3)：84，2015

日本地域看護学会第6期編集委員会（2012年6月～）の活動方針は，学会の活動目的，活動方針ならびに事業計画等に沿って編集委員会を運営することであり，また権威と親しみやすさを兼ね備えた，わが国で唯一の地域看護学の専門誌である本学会誌の編集を推進することにあります．本編集委員会では，この活動方針に沿って，創刊以来，変わることなく脈々と受け継がれてきた質の高い論文の充実を第一の使命として取り組んでまいりましたが，この度，その使命に加えて，論文以外の誌面の充実にも取り組み，読者にとっていっそう魅力ある学会誌とするべく，新連載「地域看護に活用できるインデックス」を企画し，本号よりスタートさせることとなりました．

インデックスには「索引」「見出し」などの意味もありますが，ここでは「指標」の意味で用いています．指標は多くの場合，数値化され，その状態や動きを把握することが可能になる性質をもっています．すなわち本企画は，地域看護の学術ならびに実践にかかわる状態や動きを把握することができる有用な指標について紹介するとともに，読者の方々の活用によって一層の発展を促すことを趣旨とするものです．地域看護学とは，地域で生活する人々のQOLの向上とそれらを支える公正で安全な地域社会の構築に寄与することを探求する学問です（日本地域看護学会，2014）．地域看護に活用できる指標とは，地域で生活する人々と地域社会に活用できる指標ともいえるでしょう．

一方，指標は，数値化しやすいものに限られやすいという特性ももっています．地域で生活する人々と地域社会は多様であり，単独の指標ではその一部分しかとらえることができません．複数の指標を用い，いくつかの角度から眺めることによって，ある程度バランスのとれた見方が可能になると思われますが，それでも地域で生活する人々と地域社会の全体像を数値のみで100％説明することは不可能でしょう．しかしながら，だからといって指標のみではなにも説明できないとさじを投げるのではなく，指標によってなにをどこまで説明でき，また説明できないのかについて認識のうえ，じょうずに活用し，人々や地域の把握や予測をしたり，地域看護の成果を明確にすることは意義があると考えます．

取り上げる指標については，信頼性，妥当性が確認されているものであることはもちろんのこと，これまでもまたこれからも地域看護にとって有用と考えられるもののなかから，連載に与えられる紙幅も考慮のうえ，編集委員会において選び出しました．また執筆には，その指標に明るい熟練会員から新進気鋭の若手会員の方々まで幅広くご協力いただきました．各指標は本号を皮切りに順次紹介される予定ですが，なかには本誌創刊時，社会にその存在が認識されていなかったように思われるものもみられます．すなわち地域看護に活用される指標は，時代と社会を映し出す鏡といえるかも知れません．編集委員会一同，本連載が読者のみなさまの参考となり，またご批判を賜れれば，望外の喜びです．